

話すこと・聞くこと

	第1学年	第2学年
目標	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて話の内容の組み立てを考えながら話す能力、自分の意見と結びつけながら聞く能力、意見をまとめながら話し合う能力を身につけさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
	(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。	
話 題 設 定 や 取 材	ア 経験したことの中から、一番話したいことを選ぶこと。	ア 日常生活の中から、説明する経験や行動を選ぶこと。
話 す こ と	イ 相手に応じて、事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けながら話すこと。 ウ 発音や速さ、声の大きさに注意して話すこと。	イ 相手に応じて、事柄を順序立てたり話の内容を組み立てたりして、丁寧な言葉と普通の言葉の違いをおさえながら話すこと。 ウ 内容が伝わるように、発音や口形、話す速さに注意し、はっきりした発音で話すこと。
聞 く こ と	エ 話の大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって話を聞くこと。	エ 考えを一つにまとめるために、自分はどれがよいと思うかを考えたり、自分の意見と結び付けたりしながら聞くこと。
話 し 合 う こ と	オ 互いの話を集中して聞き、同じ意見や似ている意見をまとめながら話し合うこと。	オ 互いの話を集中して聞き、同じ意見や似ている意見をまとめながら話し合うこと。
	(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	
言 語 活 動 例	ア 絵を見て話すこと。 イ 場面に合わせて挨拶（自己紹介）すること。 ウ 自分の体験について感じ方とそのわけを話すこと。 エ 事物の説明を聞き、報告したり、感想を述べたりすること。 オ 昔話の読み聞かせを聞くこと。 カ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。 キ 尋ねたり応答したりすること。	ア 物語を読んで、紹介すること。 イ 口頭で話す速さやはっきりした発音を確かめたりして分かりやすい報告をすること。 ウ 知りたいことを尋ねること。 エ 自分の考えた事物の説明をしたり、説明を聞いて感想を述べたりすること。 オ 絵の内容に興味をもち、大事なことを聞き落とさないようにしながら、聞くこと。 カ 遠足の持ち物や明日の用意を友達に連絡し合うこと。 キ 学級や班での話し合いの様子を思い出し、自分たちの話し合う力について話し合うこと。

第3学年	第4学年
(1) 相手や目的に応じ調べたことなどについて理由や事例を挙げながら筋道立てて話す能力、自分の経験や考えと比べながら聞く能力、共通点や相違点を考えながら進行に沿って話し合う能力を身につけさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手や目的に応じ調べたことなどについて内容のまとまりを意識しながら、筋道立てて話す能力、話の中心に気をつけて聞く能力、共通点や相違点を整理しながら進行に沿って話す能力を身につけさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

ア 説明するために、人から聞いた情報の要点をメモし、話したいことや聞きたいことを明らかにすること。	ア 本を読んだり、人に聞いたりして得た知識や情報の要点をメモし、話したいことや聞きたいことを明らかにすること。
イ 相手や目的に応じて、根拠、事例を挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を意識して使いながら話すこと。ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
エ 話の要点を聞き、自分の経験や考えと比べ、質問したり感想を述べたりすること。	エ 話の中心に気をつけて聞き、自分の聞きたい中心的な事柄について、分からない点や確かめたい点を質問したり、意見を述べたりすること。
オ 話し合いの目的や方向性をとらえ、司会者や提案者、参加者などの役割に応じて、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うこと。	オ 話し合いの目的や方向性をとらえ、司会者や提案者、参加者などの役割に応じて、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うこと。

ア 紹介したい本を取り上げて説明すること。イ 図表や絵、写真などを取り上げて話すこと。ウ 学校行事を紹介すること。エ グループで話し合って考えをまとめること。オ 図表や写真に基づき、話をしたり、聞いたりすること。カ 物語を読んで紹介すること。	ア 大事なことをメモに取りながら聞くこと。イ 友達の発表を、自分の考えと関わらせながら聞き発表すること。ウ 物語を読んで考えたことを話し合うこと。エ 聞き手を意識した発表の工夫を考え調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。オ よりよい学級会のしかたについて考え、学級全体で話し合って考えをまとめること。
---	--

第5学年	第6学年
(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて事実と意見を区別して話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、自分の立場を明確にしながら話し合う能力を身につけさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて話の構成を工夫しながら話す能力、話の順序や組み立てを意識しながら聞く能力、互いの考えの違いを尊重しながら話し合う能力を身につけさせるとともに、適切に話したり聞いたりする態度を育てる。

ア 日常生活の中で特に伝えたいことを説明するための話題を決めること。	ア 説明するために、本などを読んだり、人に聞いたりして得た知識や情報の要点をメモし、話したいことや聞きたいことを明らかにすること。
イ 目的や意図に応じて、事実と意見を区別しながら筋道立てて話すこと。ウ 方言と共通語の違いを理解し、丁寧な言葉遣いで話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事実と意見を区別しながら筋道立て、構成を工夫しながら話すこと。ウ 場面に応じて共通語で話すなど、適切な言葉遣いで話すこと。
エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べて考えをまとめること。	エ 説明の順序や話の組み立て方を意識しながら、話の要点を聞き、自分の経験や考えと比べ、質問したり感想を述べたりすること。
オ 協議会や討論会の形式を利用し、互いの立場や意図をはっきりさせながら意見をまとめたり関係づけたりして話し合うこと。	オ 協議会や討論会の形式を利用し、互いの立場や意図をはっきりさせながら意見をまとめたり関係づけたりして話し合うこと。

ア 資料を提示しながら話すこと。イ インタビューをすること。ウ インタビューを聞いて、報告すること。エ 討論会をすること。オ 理由を明確にして、推薦したり、それを聞いたりすること。	ア テーマを決め、計画を立てて資料を集めること。イ 意見文を書くこと。ウ 意見を主張するスピーチをすること。エ 討論会をすること。オ 課題を分析して話し合うこと。カ パネルディスカッションをすること。キ 自分たち
--	--

	の取り組みを整理して報告すること。
--	-------------------

書くこと

	第 1 学年	第 2 学年
目標	(2) 経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。	(2) 経験したことや想像したことなどについて、書こうとする題材に必要な事柄を集めて順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。
	(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。	
課題設定や取材	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決めること。	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
構成	イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 自分の考えが明確になるようにするとともに、経験した事柄やその時に感じたことなどが伝わるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
記述	ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、順序をあらわす言葉を用いて文や文章を書くこと。	ウ 語と語や文と文の続き方に注意しながら、順序をあらわす言葉やつなぐ言葉を用いて文や文章を書くこと。
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
交流	オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。	オ 書いたものを読み合い、書き手の伝えたいことがよく伝わってくる文を見付けたり、よさを見付けたりして感想を伝え合うこと。
	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。	
言語活動例	ア 想像したことなどを詩に表すこと。 イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをカードにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝え	ア 想像したことなどを文章に書くこと。 イ 経験したことを報告する文章などを書くこと。 ウ 身近な事物の違いが分かるように簡単に説明する文章などを書くこと。 エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。 オ 伝えたいことを簡単な手紙に書いたり、それに対して返事を書いたりすること。

たいことを簡単な手紙に書くこと。	
------------------	--

第3学年	第4学年
(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら書こうとする態度を育てる。	(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、読み手にも伝わるようにふさわしい言葉を選ぶなどの工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。	ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。
ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げ、読み手にも伝わるようにふさわしい言葉を選んで書くこと。エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。	オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。
カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さや表現の巧みさなどについて意見や感想を述べ合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さや表現の巧みさなどについて意見を述べ合うこと。

ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩を作ったり、物語を書いたりすること。イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、ポスターや学級新聞などに表したりすること。ウ 収集した資料を効果的に使い、	ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩を作ったり、物語を書いたりすること。イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書くこと。ウ 収集した資料を図や写真などに表し、それを効果的に使い、説明する文章などを書くこと。エ 目的に合わせて依頼状、礼状などの手紙を書くこと。
---	---

説明する文章などを書くこと。 エ 目的に合わせて案内状などの 手紙を書くこと。	
---	--

第5学年	第6学年
(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。	(2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて説得力をもった文章を書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。	ア 考えたことや自分自身の経験したことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。
ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが説得力をもって伝わるように書くこと。
オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりしながら、改善すべき点を見つけて書き直すこと。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりしながら、考えの根拠が的確であるかを見直したり、改善すべき点を見つけて書き直したりすること。
カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。
ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句を作ったり、物語などを書いたりする	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩を作ったり、物語や随筆、レポートなどを書いたり

こと。イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。	すること。イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。ウ 事物のよさや自分が取り組んできたことを多くの人に伝えるための文章を書くこと。
---	--

読むこと

	第1学年	第2学年	第3学年
目標	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などを考えたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子、心情などをとらえたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、自ら選んで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり要約しながら読む能力を身に付けさせるとともに、目的に応じて複数の本から読書しようとする態度を育てる。
	(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。		
音読	ア 発音や言葉の響き、リズムなどに気をつけて音読や朗読をすること。	ア 場面の様子を想像しながら、言葉の響きやリズムに気をつけて音読や朗読をすること。	ア 場面の様子を想像しながら擬音語や繰り返しに注意して、内容が伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方			
説明的な文章の解釈	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ 時間的な順序や問いと答えの関係などをとらえて読むこと。	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係に注意しながら文章を読むこと。
文学的な文章の解釈	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像しながら読むこと。	ウ あらすじをとらえながら、場面の様子や登場人物の言動、心情について、想像を広げながら読むこと。	ウ 場面ごとの様子をとらえ、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述に注意しながら読むこと。
自分の考えの形成及び交流	エ 文章の中の大事な言葉や文を見つけ、書き抜きながら読むこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめること。	エ 文章の中の大事な言葉や自分の考えに影響を与えた言葉を書き抜くこと。オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを要約すること。 オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
目的に応じた読書	カ 自ら本を選び、楽しみながら読むこと。	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	カ 本の紹介や情報収集などの目的に応じて、本や文章を選んで読むこと。
	(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		

言語活動例	ア リズムを楽しんだり、発音に気をつけながら音読や朗読をすること。イ 生き物や事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。ウ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書いたり、好きなところを紹介すること。オ 図鑑や絵本などを選んで読むこと。	ア 想像を広げたりしながら、リズムや言葉の響きが特徴的な作品を音読や朗読をすること。イ 生き物や事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読んで、内容をまとめること。ウ 物語の読み聞かせを聞いたり、場面の様子などを想像しながら物語を演じたりすること。エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書いたり、自分の考えを発表し合うこと。オ 図鑑や絵本などを選んで読むこと。	ア 擬音語や繰り返しなどの表現技法が豊かな作品を工夫して音読や朗読をすること。イ 記録や報告の文章を読んで自分の考えを友達と発表し合うこと。ウ 文学的な作品を読んで、感じ取ったことを発表し合うこと。エ 記録や報告の文章を読んで、その要約を作成すること。オ 必要な情報を得るために、図鑑や事典などを利用したり、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。
-------	--	--	---

第4学年	第5学年	第6学年
(3) 目的に応じ、段落相互の関係を考えたり登場人物の様子をとらえたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、目的に応じて本を選び読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、比べて読んだり、内容や描写、要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、複数の本をから比べて読もうとする態度を育てる。	(3) 目的に応じて、読み方を工夫したり、自分の考えを明確にしながら読んだりして、内容や描写、要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、課題解決のために読書を活用しようとする態度を育てる。

ア 情景に注目して場面の様子がわかるように工夫して音読や朗読をすること。	ア 作者の思いや自分が感じ取ったことが伝わるように工夫して音読や朗読をすること。	ア 自分の思いや考えが伝わるように工夫して音読や朗読をすること。
	イ 目的に応じて本や雑誌、新聞などに対して比べて読んだり多読するなど読み方を工夫すること。	イ 本や雑誌、新聞などに対して速読や摘読など、目的に応じた効果的な読み方を工夫すること。
イ 目的に応じて、段落相互の関係や段落のつながり、文章の構成をとらえて読むこと。	ウ 目的に応じて、事実と感想、意見などとの関係を押さえて要旨をとらえ、自分の考えをもちながら読んだりすること。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨や根拠と主張の関係ををとらえたり、自分の意見を明確にしながら読んだりすること。
ウ 場面の移り変わりに注意しながら、問いを立てて読み解いたり登場人物の行動や心情の変化をとらえたりしながら読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写、表現に着目し、優れた叙述について自分の感想や考えをまとめながら読むこと。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写、表現をとらえ、優れた叙述について自分の考えを広げながら読むこと。
エ 目的や必要に応じて、各段落の要点をまとめて文章全体を要約したり、細かい点に注意して引用や要約をすること。 オ 自分の考えを文章にまとめたり、理由を明らかにして思ったことを発表し合うことを通して一人一人の感じ方について違いがあるのに気付くこと。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、交流することで自分の読みを確かめたり、書き手の立場や考え方に注意して自分との共通点や相違点から考えをまとめること。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表交流し、自分との共通点や相違点から考えをまとめたり、自分の考えを広げたり深めたりすること。
カ 本の紹介や情報収集などの目的に応じて、複数の本や文章を理由を明らかにしながら選んで読むこと。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	カ 課題を解決するため目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読み、必要な情報を読み取ること。

ア 場面の様子が伝わるように工夫して音読や朗読をすること。 イ 記録や報告の文章を読んで自分の考え明確にし、友達と比べてみること。 ウ 文学的な作品や説明的な文章を読んで、根拠を示しながら自分の考えを発表し合うこと。 エ 記録や報告の文章を読んで、その要約を作成し読み合うこと。 オ 必要な情報を得るために、図鑑や事典などを利用したり、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。	ア 音読や朗読の仕方を工夫し、その工夫を発表し合うこと。 イ 新聞や雑誌などを、編集の仕方や記事の書き方などに注意して読むこと。 ウ 説明的な文章を読んで、根拠を明らかにしながら自分の考えを発表し合うこと。 エ 作品を読んだ感想や主題について考えたことを書きまとめたり、表現について作者の意図を考える。 オ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。	ア 音読や朗読の仕方を友達と工夫したり、その工夫を発表し合うこと。 イ 新聞や雑誌、インターネットなどを、速読や拾い読みなど工夫して読むこと。 ウ 説明的な文章を読んで、根拠を明らかにしながら文章の構成などについて自分の考えを発表し合うこと。 エ 随筆や伝記を読んで感想を書いたり、好きなものを紹介すること。 オ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章など複数の本を利用すること。
---	---	--

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

	第1学年	第2学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	ア 昔話などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表しあったりすること。	ア 神話・伝承などの本や文章を読み、発表しあったりすること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	ア 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くこと。イ 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。ウ 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。エ 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。オ 句読点の打ち方を理解すること。カ 文の中における主語と述語との関係に注意すること。キ 敬体で書かれた文章に慣れること。	ア 言葉には、経験したことを伝える働きがあることを理解すること。イ 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付き読んだり話したりすることができること。ウ 様々な意味関係にもとづいて、語句をまとめることができるということを理解すること。エ 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。オ 文の中における主語と述語との関係を理解し、文を読んだり書いたりすること。カ 敬体で書かれた文章に慣れ、常体と区別することができること。
ウ 文字に関する事項	ア 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。イ 第1学年においては、別表の学年別配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。	ア 片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。イ 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。
	(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
（書写）	ア 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。	ア 点画の長短や方向、接し方交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

第3学年	第4学年
ア 易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。イ ことわざや慣用句などの意味を知り使うこと。	ア 易しい文語調の短歌について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。イ 慣用句や故事成語の意味を知り使うこと。
ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることを理解すること。イ 漢字と仮名を用いた表記などに関心を持ち、読んだり書いたりすること。ウ 送り仮名に注意し、活用について意識をもつこと。エ 句読点を適切に打ち、会話の部分などは行を改めて書くこと。オ 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。カ 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、国語辞書などを利用して調べる方法を理解すること。キ 修飾と被修飾など、語句の関係を理解すること。ク 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解すること。	ア 言葉の様々な働きを理解し、適切に使い分けること。イ 漢字と仮名を用いた表現に注目し、適切に読んだり書いたりすることができること。ウ 送り仮名に注意して書き、活用の変化を理解すること。エ 句読点を適切に打ち、段落の始めなどの必要な個所は行を改めて書くこと。オ 語句を増し、適切に使い分けることができること。カ 国語辞書を習慣的に使い語句を増やし、漢字辞典を利用して調べる方法を理解すること。キ 文の構成について基本的な理解を持ち、書くことができること。ク 指示語や接続語の役割を理解し、文や段落の関係に注意しながら読んだり書いたりすること。
ア 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。イ 第3学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	ア 第4学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。イ 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

ア 文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。イ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して書くこと。	ア 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。イ 点画の種類を理解し、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。
---	--

第5学年	第6学年
ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。	ア 口語訳と照らし合わせながら内容を読み取り、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
ア 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。イ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。ウ 正しい送り仮名や仮名遣いを理解すること。 エ 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。オ 語句と語句との関係を理解し、適切に文章を読んだり書いたりすること。カ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。キ 文や文章にはいろいろな構成があることを理解すること。ク 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。ケ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	ア 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、適切に使い分けること。イ 言葉の変化や違いについて理解し、比較しながら読むことができること。ウ 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。エ 語句の由来や語源について調べ、語句の成り立ちについて理解を深めること。オ 文章の構成に注目し、文章の特徴に気を付けながら読んだり書いたりすること。カ 語感、言葉の使い方に対する感覚を身に付け、適切に読んだり書いたりすること。キ 文や文章の構造に注目し、適切に表現する方法を理解すること。ク 敬語の種類について理解し、適切に敬語を使おうとすること。ケ 様々な表現の工夫を理解し、適切に読んだり書いたりすることができること。
ア 第5学年においては、学年別配当漢字表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。イ 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	ア 第6学年においては、学年別配当漢字表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。イ 仮名及び漢字の由来、特質などについての理解を深めること。

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して毛筆を使用して書くこと。	ア 目的に応じて使用する筆記用具を選び、その特徴を生かして書くこと。 イ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
---	---